国語科「現代文 B」授業実践紹介

授業者：荒金　恭子
学　年：２年
単元名：ゴリラの社会に学ぼう　～『ゴリラの思いやり』『ゴリラから学ぶ』山際寿一～

単元のねらい

①どうすれば評論文を読むことができるのかについて、方略を立て、文の構造や、段落相互の関係に注目し、文章をまとめることができる。
②パフォーマンス課題に挑戦することによって、文章から得た筆者の主張を実社会の具体的事象と結び付けて、改善提案を行うことができる。

単元の流れ

①パフォーマンス課題と評価を提示し、学習の手順についての見通しを立てます。（１時間）

パフォーマンス課題
筆者は日本の社会が、「サル化」していることを問題とし、あるべき姿を「ゴリラの社会」に学ぶことをのべています。
「サル化した日本の社会」「ゴリラの社会」の内容を明らかにした上で、あなたの身近に感じる「サル化した社会」　の例を挙げ、どうすれば「ゴリラの社会」になるのか、改善策を挙げなさい。
発表の方法は、言語、非言語(文章、図、演技等)効果的な方法を考えること。

②グループで、パフォーマンス課題の解決のために、二つの教材を読み取っていきます。
主述や対比に注意して大事なところに線を引きながら読んでいます。
（３～４時間）

③パフォーマンス課題に対する自分たちの考察と提案をグループごとに発表します。（２～３時間）

上の写真は、生徒がシナリオをつくり、役割を演じている様子です。場面は、文化祭の展示の出し物をめぐって対立した二人を、どうすれば「ゴリラの社会」の方法で解決できるか、試みているところです。

④単元の振り返りをし、その内容をグループやクラスで共有していきます。（１時間）

パフォーマンス課題の評価

	A	B	C
Ⅰ内容	「サル化した人間社会」「ゴリラの社会」の内容を理解し、問題事例とその改善提案ができた。	「サル化した人間社会」「ゴリラの社会」の内容を理解できていはいるが、問題事例とその改善提案はできなかった。	「サル化した人間社会」「ゴリラの社会」の内容を理解できず、問題事例とその改善提案もできなかった。
Ⅱ　伝える能力	他者を意識して、図やイラスト、演技など、表現を工夫して分かりやすく説明できた。	図やイラスト、演技などによって、表現をまとめることができた。	図やイラスト、演技などによって、表現でまとめることができなかった。

単元を通して身につけてほしいこと

次の２点です。①他者とどのようにつながっていけばよいかについて、「コミュニケーション」「社会の在り方」をテーマにした教材を複数読み比べ、その結果について仲間との話し合いを通じて、自分の考えを深める力。②そこで培った考えを、実際の問題場面と結び付けて、どのように改善していくのか、具体的な改善提案できる力。①と②の前提として、仲間の力を借りて、どうすれば文章を読むことができるのか自分の見通しをもって読む力をつけてほしいと思っています。

実践の背景

本校では、次の３点ができることを目指し、将来自分が置かれた場所で改善提案ができる生徒の育成を目指しています。①自分の言葉でノートを取り説明できるようになる。②課題の取組についてポートフォリオを作成する。③閑谷學（総合的な学習の時間）で、自己の在り方生き方を考えながら、地域や社会の課題を発見し解決に向けて探究する。

特に③については、教科の授業でも、「生徒が日常生活でより切実に感じる」課題を設定し、その課題に対して仲間と協力して解決する力を育てることを試みています。本実践もそうした取組の一つとして生徒ともに挑戦しました。

授業改善のアプローチ

- 本教材のような長い文章を読むことに苦手意識を持っている生徒も少なくありませんが、次の２点を足場掛けにして、この課題に向かわせたいと思っています。
  ①授業の導入時に活用する『論理エンジン』の知識を活用しながら筆者の主張を読み取らせる。
  ②その過程においては、グループのメンバーを入れ替えるなどして、生徒同士が読みの確かさを確認しあえる場面を用意する。

生徒の変容（ある教室の一場面から）

改善提案として、「多数決だから仕方ないでしょ。」と仲裁者に言われて「はい」と引き下がったＨさんは、本当は納得していない様子でした。そのことに気づいたＩさんが、発表後の質疑応答で、「その時、どんな気持ちでしたか」とＨさんにたずね、それをきっかけに、Ｈさんが気持ちの面でも納得のいくような改善提案にしていくには、さらに、どうしていけばよいのか、教室全体で考える様子がうかがえました。

相互評価をすると、「オールＡ」と、無難に評価をしてしまいがちだった教室が、学び合うことに一歩向き合った瞬間でした。

評価

次の３点で今学期の評点とした。下の表は単元のルーブリックとして生徒に示したものである。
①パフォーマンス課題に対する評価（３０％）
②一枚ポートフォリオによる評価（２０％）
③定期考査による評価（５０％）

	A	B	C
Ⅰ　関心・意欲・態度	学習課題を実生活と結び付けて、取り組むことができている。	学習課題に熱心に取り組んではいるが、実生活と結び付けられてはいない。	学習課題に熱心に取り組むことができていない。
Ⅱ　聞く・話す	グループでの話し合いや作業を進める役割を取りながら参加できた。	グループで最低１回は発言をし、話し合いや作業に参加できた。	話し合いや作業に加わることができなかった。
Ⅲ　書く	他者を意識して、図やイラスト、演技など、表現を工夫して分かりやすく説明できた。	図やイラスト、演技などによって、表現をまとめることができた。	図やイラスト、演技などによって、表現でまとめることができなかった。
Ⅳ　読む	本文の内容や筆者の考えを反映したパフォーマンス課題に対す答えを論理的に、まとめることができている。	本文の内容をまとめることはできたが、筆者の考えを反映したパフォーマンス課題の答えをまとめることはできなかった。	本文の内容やパフォーマンス課題の答えをまとめられなかった。
Ⅴ　知識・理解	主語と述語や、逆接の関係、段落相互の関係に関する知識を十分に活用し、文意を把握できている。	主語と述語をとらえることで文意をだいたい把握できている。	文法的な知識と実際の文意を把握することが結びついていない。